



続けて、日本経済の現状と課題について説明をされました。中小企業の価格転嫁の問題や政府の取り組み、地域創生と中小企業支援の重要性を強調されてました。また、個人消費の低迷や輸出の状況、製造業の動向についても分析し、景気回復の兆しがあることを指摘されています。そして半導体産業を含む製造業の活動が持ち直す可能性があるかと述べられました。

日本の観光業の現状と課題について説明をいただきました。外国人観光客数が増加傾向にありますが、中国人観光客の回復が遅れていることを指摘されています。奈良県の観光に関しては、国内観光は好調ですが、インバウンド観光には課題があり、特に外国人観光客の宿泊率と消費額の低さが問題となっているとのことでした。

また、アメリカの金融政策や政治情勢が日本経済に与える影響についても言及されました。トランプ大統領の就任により関税が導入される見通しですが、一律の導入ではなく、交渉の材料となるのではないかとのことです。

日本の固有の要因として貿易赤字をあげられています。経常収支は黒字が続いているが、サービス収支の赤字が続いているとのことでした。特にデジタル赤字が拡大しているとのことでした。

毎年恒例の干支のお話しでは、「辰巳天井」と言われている通り、うさぎ・辰・巳と3年連続で比較的高いパフォーマンスが期待できる年回りということです。株価水準はもう一段あげてくるのが予想できるのではないかと予想されました。

講演のあとも、参加者より世界の経済動向に対する多くの質問が寄せられ、盛況を持ちまして、2024年の経営研究会を締めくくりました。

以上



芳仲会長 ご挨拶



講師 信金中央金庫 地域・中小企業研究所 角田匠氏